

よりよい学習指導案を書くためには

目次

- 1、学習指導案について
- 2、他者から見て分かりやすい学習指導案とは
- 3、よりよい授業設計とは
- 3、まとめ

学習指導案とは

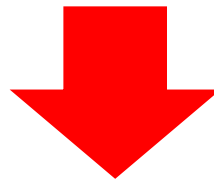
各授業単位の具体的な指導計画のこと。



- 指導する各学級の生徒の実態及び社会や教科の系統上の要求を踏まえる
- 細かい内容まで作成する(教師の支援活動, 生徒の学習活動、評価活動など)

学習指導案作成の意味

学習指導案は校内研究や研究発表があるから書くのではない！！



- 授業そのものの質を高めるため
- 他者から見て授業が理解されるため

学習指導案の位置づけ

指導計画作成の基本的な考え方の確認

- 法令や中学校学習指導要領の「総則」、技術・家庭科の目標、各学校の教育目標などを確認

技術・家庭科に関する生徒の実態などの把握

- 地域、各学校の実態の把握
- 生徒の発達段階や生活経験などの実態の把握

教科の指導方針の確認

- 技術・家庭科の指導を通して育てたい生徒像や指導方針の確認

各学校の教育課程の確認

- 技術分野・家庭科分野の授業時数の確認
- 選択教科、総合的な学習の確認

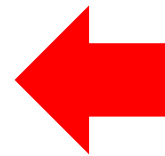
3年間を見通した全
体的な指導計画の
構想

- 技術分野・家庭科分野の指導項目、題材の決定
- 題材の授業時数、学年配置の決定

- 3年間を見通した全体的な指導計画の作成

- 題材単位または年間の指導計画の作成

- 授業単位の指導計画の作成



学習指導案

~復習~

- 技術・家庭科の目標

生活に必要な基礎的・基本的な知識及び技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てる。

- 技術分野の目標

ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度をそだてる。

2、他者から見て分かりやすい学習指導案とは

学習指導案の作成順序

- ①題材(題材名)
- ②題材について
 - (1)目標
 - (2)設定の理由や題材観
- ③生徒について
- ④指導観
- ⑤指導計画
- ⑥本時の目標
 - (1)本時の目標行動
 - (2)本時の下位目標行動
 - (3)下位目標行動の関連図
- ⑦準備物
- ⑧指導過程
- ⑨板書計画
- ⑩評価基準

①題材(題材名)

- 学習のまとまりの名前

~復習~

題材→技術・家庭科における題材とは、教科の目標及び各分野の目標の実現を目指して、各項目に示される指導内容を指導単位にまとめて組織したもの。

②題材について

(1)目標:この題材を通して何を身に付けさせたいのかを明示するもの。

<ポイント>

- 学習指導要領の**当該学年**の指導事項との整合性
- 「**学習指導要領**」との一致
- 「**題材設定の理由**」の内容と合致

(2)設定の理由や題材観

- これから行う題材の特色を記述する。その際、**当該学**
年のどの部分に適した題材であるかも記述する。

<ポイント>

- 題材設定に関わる社会的な背景
- この題材を使ってどのような力が身に付くのか
- どのようなところで問題解決的な学習につながっているのか
- どこで、実践的・体験的な学習が行えるのか。どのような生活する力がつくのか
- 「自ら生活の改善」を目的とさせるために、どのような題材が構築されているか

③生徒について

- 題材を進めていく前提としての実態を分析的に書くこと。題材設定の理由を説明するために**直接関係のない**実態は記入しないこと。

<ポイント>

- 学校について(生徒の生活を説明する上で必要がある場合のみ位置・地域性・歴史などについて記入すること)
- 生徒の学習する姿勢について(事前調査を必ず実施し、集計結果のグラフなどを入れ考察を加えること)
- 生活を改善する手立てを考えるための学習活動が展開できているかどうかについて考察する。

④指導観

- 「生徒の実態」においては、特にこの題材に関わるものでつけない力が示された。それを受けて、「題材については」どのような題材なのかが示された。ここでは、これら2つをさらに受けて、どのような指導をしていくのかというポイントを書かれなくてはならない。

⑤指導計画及び評価計画

- 学習(指導)の流れが分かるように工夫し、記入する。その際、前時と次時とのつながりが分かるようにすることが必要。

<ポイント>

- この題材を全部で何時間行うかを示す。
- それぞれの時間の学習活動を記入する。
- その中の本時の部分がどこに位置するのかを明示する。

⑥本時の目標

(1)本時の目標行動

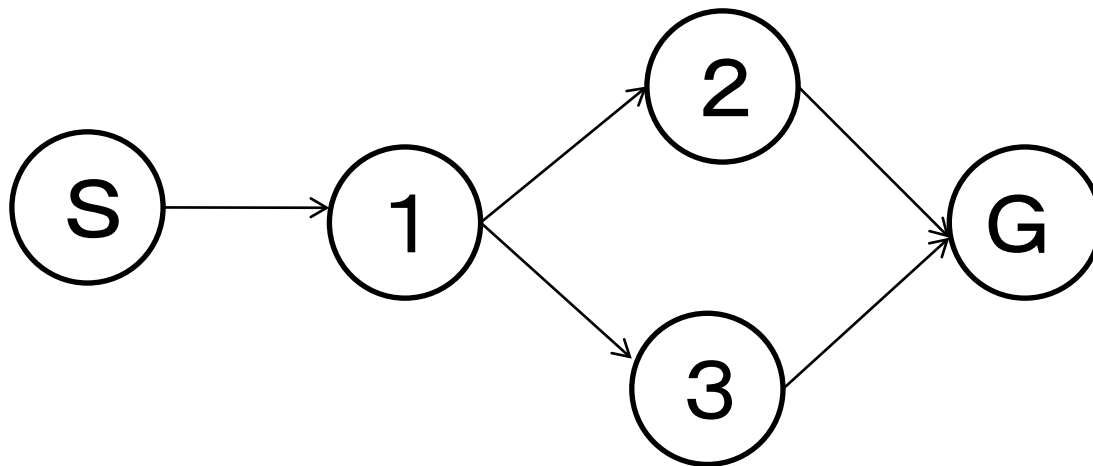
本時の学習のねらいを明記する。題材のねらいを達成するために、本時では何をどこまでねらうのかという表明になる。題材の目標との関連性が求められる。また、その目標地点への到達をどのような手段・方法・活動で行うのかが分かるように表現することが大切である。

(2)本時の下位目標行動

- 本時の目標を達成するために達成しておかなければいけない目標行動

(3) 下位目標行動の関連図

- 下位目標行動を図で示したものの



⑦準備物

- 本時の授業で使用するもの、事前に準備しておかなければならないもの

⑧指導過程

- 「指導過程」については、児童・生徒が主体的に学習活動に取り組めるような「指導上の留意点及び支援の工夫」を**具体的に**記述する。

<ポイント>

- 具体的には、「〇〇〇において(場面)、
〇〇〇することにより(具体的な手立て)、
〇〇〇ようにする(目指す方向)。」のように記述する。

⑨板書計画

- 黒板に本時の授業で板書する略図

本時の目標:

<生徒たちの意見>

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

まとめ

⑩評価規準

- 「関心・意欲・態度」「創意工夫」「技能・技術」「知識・理解」の4観点から「題材ごとの評価規準」を設定し、**できるだけわかりやすい表現**で書く。

<理由>

題材の学習を通して身に付けるべき資質や能力が「目標」に照らしてどのような状況にあるかを的確に把握するため

学習指導案に必要なこと

1. 授業の目標が、授業後に期待される生徒の行動形態で明確に記述されていること
2. 想定している生徒の資格(前提行動)が明確に記述されていること
3. 教義の教授活動(説明、発問、授業中の教師の判断、フィードバックの方法等)が時系列に従って具体的に記述されていること
4. 授業を評価する方法が具体的に記述されていること



何事も明確かつ具体的に！！

3、よりよい授業設計とは

授業設計とは

授業を実施する前にあらかじめ授業過程や学習指導の仕方を構想・設計すること



教科の**目標・内容に則して**授業を構想し、学習指導法などを脚本化すると同時に授業過程を企画・調整する必要がある

授業設計の手続き

教材に則した教育観や学習者の実態の把握



授業目標の設定



系統的かつ計画的な授業過程の構想・設計



学習指導案の作成・実践



学習効果や学習指導を授業目標と照合し評価

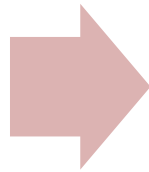
授業目標と授業過程の構成を設定するには...

授業目標

教科の目標
や学力構造・
能力につい
ての分析



事前に...



授業過程の構成

学習内容に
ついて系統
性をもたせ関
連づけさせる

学習内容の
関連を構造
的に把握し
ておくこと

7、客観主義と構成主義

- 客観主義→「習得」に重点が置かれ、授業者が学習者の水準に適合した目標を設定し、分析した教授内容の伝達を効率的に行うことに関心が払われる。
- 構成主義→「学習」に重点が置かれ、学習者の状況や関心・意欲、他者との相互作用などを契機として、実体験に則した学習活動が中心に据えられる。

※習得：知識やスキル 学習：自ら学び考える

客観主義に基づく授業設計

教育目標の タキソノミー

- 教育目標として3つの領域を挙げ、学習内容の階層構造化することで授業の概要の設計をする。
認知的領域・情意的領域・精神運動的領域

学習内容の 階層化

- 5種類の「標準的動詞」の分類を利用して学習指導要領や教科書から学習内容を抽出し、主要なものと補助的なものに分類して階層構造化を図る。

ISM教材構 造分析

- 教材から学習内容を抽出し、コンピュータによる関連構造図を作成する。この構造図から、学習内容を追加・変更・修正して全体構造を決定する。

構成主義に基づく授業設計

学習者の 認識過程に 基づく方法

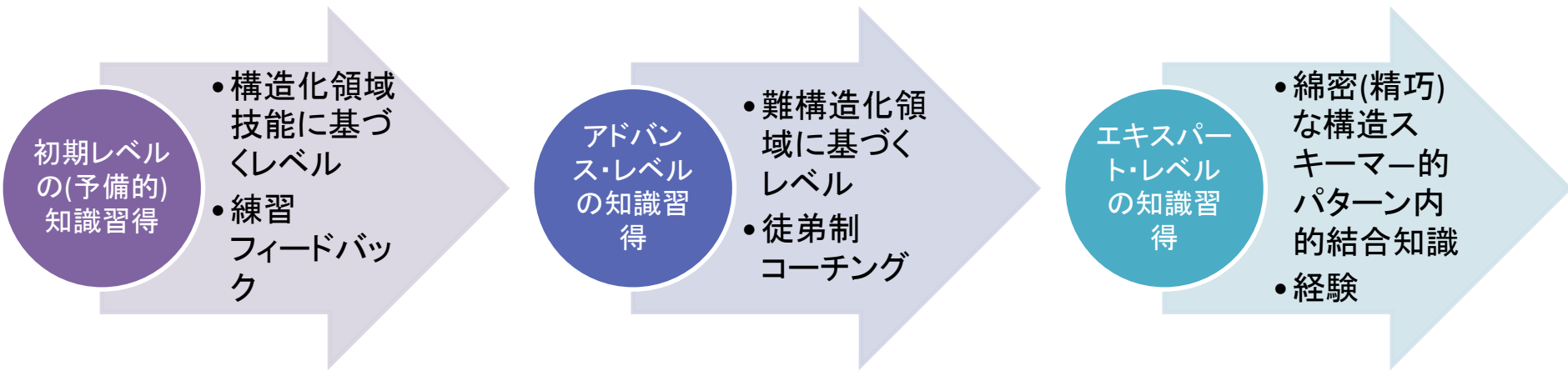
- 学習者が思考をする場面を7段階でステップ化している。

学習者の 思考活動に 基づく方法

- 学習者の思考活動を手がかりとして、その順序性や因果関係に基づき、「ものづくり学習」の製作活動に対する学習指導の基本モデルを提案することができる。

学習パラダイムを組み合わせた授業設計

知識習得の3段階



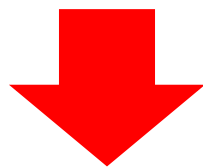
客観主義か構成主義のいずれか一方に傾斜するのではなく、**学習者の学習状況に応じた授業設計が必要。**

授業設計の留意事項

- 授業者の教育観・授業観を踏まえた目標設定
- 教材の特色や学習者の個性に応じた学習指導についての深い検討

具体的には...

- 学習者の理解・選択・観察・評価などの学習活動を確実なものにするために、**授業者が行う教示・例示・説明・支援などの学習指導を精選することがあげられる**。授業の中で何を目標・ポイントとして設定し、そのための指導方法や教材をどう工夫して扱い、学習者の思考や活動をどう配慮・予想しているのかについて明確にすることを通して、目標・内容・方法・評価の整合性を有した授業を構成することが重要。



学習指導案に明記する

学習指導案の在り方

こうでなければならない、この形式でなければならないということではない！！



- 他者が見て目標や指導方法等が明確なもの
- 質の良い授業を展開できるもの